

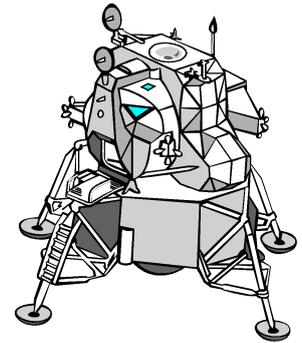
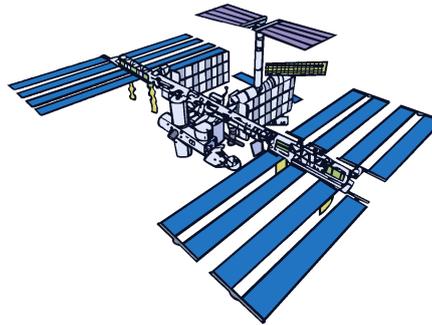
根井雅弘著「シュンペーター」講談社学術文庫、講談社 2006年1月10日刊を読む

宇都宮大学工学部
アカデミアホール
18:40～

イノベーションとは何かを考える

1. シュンペーター(1883～1950)

- (1) イノベーション
- (2) 企業者精神
- (3) 創造的破壊



2. 資本主義衰退論

- (1) 資本主義的合理性の浸透が

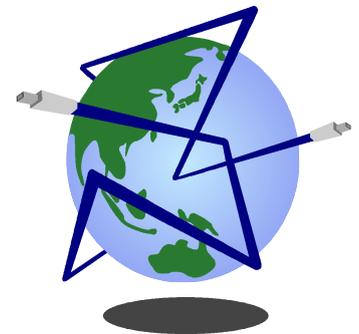
封建社会から受け継がれてきた過去の伝統や制度を破壊し、そのことによって、かえって資本主義のシステムが機能不全に陥る。

- (2) <混成性原理>

システムが生き残るためには内部に複雑さと多様性が十分に存在しなければならない。
—システムが機能するためには「非純粋性」が必要。

- (3) 「経済的要因」
「非経済的要因」

の相互交渉



3. 「人間の文化の発展、とりわけ知識の発展はまさに飛躍的に生ずる」

4. 「企業者 entrepreneur による新結合 new combination、イノベーション innovation の遂行」

- (1) 経済発展の本質は、以前には定められていた静態的用途に充てられていた生産手段が、この経路から引き抜かれ、新しい目的に役立つよう転用されることにある。

- (2) この過程を「新結合の遂行」と呼ぶ。

- (3) そして、これらの「新結合」は静態における慣行の結合のように、いわば自ずからそれ自身を貫徹するものではない。

- (4) それらは「少数の経済主体にのみ備わっている知力と精力」を必要とする。

- (5) こうした新結合を遂行することこそ「企業者」の真の機能がある。

5. 「静態」

- (1) 「産出量の水準に変化がなく、生産・交換・消費などの経済数量がつねに同じ規模で循環している状態」
- (2) 「静態」は時間を含んでいるが、つねに同じ規模の経済数量が循環しているので、資本蓄積や貯蓄などは発生しない。
- (3) 「経済体系のなかには、達成されるかも知れない均衡をそれ自身で攪乱(かくらん)するエネルギーの源泉がある」
- (4) 故に、資本主義経済の動態分析、単に外的諸要因に依存しないで、経済体系を一つの均衡からもう一つの均衡へ推進させるのを説明する経済変化の純粋理論を追求。
- (5) 「達成されるかも知れない均衡をそれ自身で攪乱するエネルギーの源泉」とは、「企業者(entrepreneur)による新結合(new combination)の遂行」である。

6. 「知的な扉を開く」ことがシュンペーターの教育哲学、自らの人生目標、「自らの使命」

- (1) 学生の授業ボイコットで反省(29歳のとき)
- (2) 公衆に語りかける講演…「語彙の豊富さ」



- (3) 貴重な試練
- (4) いつでも造作なく迅速に書く、読書ノート、抜群の記憶力、何時間も勉強し、夜更けまで読書をし、自分の読書や思索についての「ノート」を取った。

7. 新結合の担い手としての「企業者」

- (1) 静態的経済社会では、自らの機動力によって実際に変化する社会ではなく、単に時間とともに流れる実質所得の定常率を再生産するに過ぎない。経済体系にとっての与件(資源、人口、技術、社会組織)に対して受動的に適応するに過ぎない「経済主体」しか存在しない。
*この「経済主体」とは、本源的生産要素(労働と土地)の所有者である「労働者」と「地主」のこと。
- (2) ところが、この静態的社会は、いち早く新しい可能性に気づき、それを実行に移そうとする「企業者による新結合の遂行」によって「破壊」される。
- (3) 「企業者」の定義とは
「新結合の遂行を自らの機能とし、その遂行に当たって能動的要素となるような経済主体」のこと。

- (4) 「静態的経済の世界で循環の軌道に従って企業を経営する者」は、単なる「経営管理者」に過ぎず「企業者」とは呼ばれない。このような「経営管理者」は「労働者」に入る。
- (5) 年々のわずかな連続的变化は「発展への契機」にはならない。「非連続的で急激な変化」ならその可能性がある。
- (6) 「新結合」こそまさに「経済から自発的に生まれた非連続的な変化」である。
- (7) この変化は経済体系の内部から生ずるもの
- (8) これは、その体系の均衡点を動かすものであって、しかも、新しい均衡点は古い均衡点からの微分的な歩みによっては到達しえないようなもの。郵便馬車をいくら連続的に加えても、それによってけっして鉄道をうることはできない。

8. 「新結合」とは

- (1) 新しい財貨の生産
- (2) 新しい生産方法の導入
- (3) 新しい販路の開拓
- (4) 原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得
- (5) 新しい組織の実現(例えば、トラストの形成や独占の打破)



* これらの新結合の担い手が「企業者」。静態的経済の世界で循環の軌道または慣行に従っているに過ぎないのは単なる「経営管理者」。

9. 「動態」的経済

- (1) 静態的経済では、すべての生産物価値は労働用役と土地用益の価値の合計に等しいので、それ以外の所得は存在しない。静態界における経営管理者は、利潤もなければ損失も被らない存在。
- (2) しかし、企業者による新結合の成功(例えば、低コストでの製品生産の実現や新しい販路の開拓などは、労働者にも地主にも帰属しない所得(企業者利潤))を発生させる。
- (3) つまり、企業者利潤は新結合が行われる発展過程においてのみ発生する。
- (4) 「新結合」は「生産手段ストックの転用」
 しかし、静態的経済では、すべての経済数量が同じ規模で循環しており、貯蓄や資本蓄積などは存在しないので、新結合を賄う資金の源泉がない。ここに唯一の資本家としての銀行家が登場する。

(5)「企業家」は「銀行家 Banker」の「信用創造の助けを借りて初めて新結合を遂行」することができる。

- ・銀行家に特有の所得(資本利子)は、新結合に成功した企業者の利潤から支払われるので、「利子」もまた動的現象といえる。

10. (1)いつの時代でも最初に「新結合」に成功するのは「ごく一握りの天才的企業者」のみ。

(2)しかし、いったん彼らによって道が開かれると、今度は「新結合」が「群生」する。

なぜなら、先駆者によって「新結合」の遂行を妨げる障害や困難が克服されてしまえば、後に続く者はそのやり方を模倣し、より容易に「新結合」を遂行することができるようになるからである。

(3)そして、このような「新結合の群生」が経済を「好況」へと導いていく。

(4)しかし、永遠の好況は存在しない。

新結合の成果として、新しい財貨が大量に市場に出回る。財貨の供給の増加とともに諸価格は下落するが、企業家はまた銀行家に債務を返済しなければならないので、価格の低下に拍車をかける。

(5)これらの現象は経済体系が新結合によって創造された事態に適応しつつあるときに見られるもので再び静態経済に戻るまで続く。これが「不況」の過程に他ならない。

(6)但し、静態的経済に戻るといっても、新しいものは発展の成果が実質所得の増加という形で消費者に手渡されている点で古い静態的経済とは区別される。

(7)このような「不況」は、「新結合」によって創造された新事態に対する経済体系の正常な適応過程。

(8)この新結合は、「経済体系の内部から生じる非連続的な変化」。

(9)新結合とは、「内部経済を外部経済に転換すること」。

その真の意味とは、新結合は、まず何よりも優れた才能をもつごく少数の天才的企業者によって内部経済として遂行される。しかるのち、模倣者たちが大量に出現し、新結合の成果が社会全体に拡散していくということ。

11. 企業者の要件

(1)洞察

(2)意志の新しい違った使い方

(3)新しいことを行おうとする人々に対して向けられる社会的抵抗の克服



12. 企業者の動機付け

- (1) 私的帝国や自己の王朝を建設しようとする夢想と意志
- (2) 勝利者意志
- (3) 創意の喜び

・「カリスマ的指導者」とは伝統的支配の停滞性を打破する者(M. ウェーバー)

13. (1) 「質の飛躍」(ヘーゲル)

- (2) 「超人」(ニーチェ)

・超人の質は増加可能でも遺伝可能でもなく、その出現は全くランダム・プロセスである。

- (3) 自然は飛躍せずへの挑戦(シュンペーター)

14. 資本主義の正副操縦士

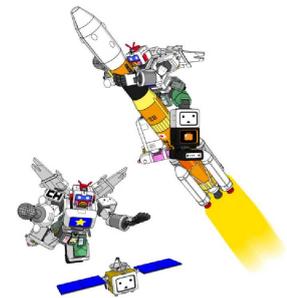
- (1) 新結合を行うただ者でない「企業者」

- (2) その背後にあって多くの企業者の中から本物の企業者を見抜く眼力のある「銀行家」

- (3) シュンペーターの資本主義社会とは、ただ者ならぬ企業者と銀行家が経済を引っ張っていくニーチェ的な英雄主義の世界。

- (4) 革新を行って、古い世界を打破し、今までと全く違う物質世界をつくることにより新文化を形成する。

- (5) 単純なモデル化を許さず。



[コメント]

シュンペーターの入門書である本書を何回か読み終えてから、シュンペーター著「経済発展の理論(上・下)」全2冊、岩波文庫、岩波書店 1977年9月16日刊を熟読し、「イノベーション」とは何かを御自分なりにお考えになることを強くお勧めしたい。

— 2015年1月28日 林 明夫記 —

